

# 津波防災に関するワーキンググループ 検討事項案(概要)

資料1-1

津波による人的被害を無くしていくことを目的とし、ただちに実施すべき対策と中・長期的に取り組んでいくべき対策について検討・とりまとめを行う。

## 【検討事項1】 情報と避難行動の関係

- 理想的な避難行動のあり方(「揺れたら避難」の推進に向けた対策のあり方)
- 津波でんごんこと家族等の安否確認のあり方
- 発生時に避難行動を促すための情報のあり方(津波警報等の改善、避難指示等の発令について)
- 自然現象の不確実性や現在の予測技術の精度を踏まえたリスクコミュニケーション
- 避難に有効に活用されるための 津波ハザードマップのあり方(ハザードマップで伝えるべき事項や津波警報との融合)

## 【検討事項2】 情報伝達手段とそのあり方

- 監視・観測を含めた情報の発信者から受け手までの一連の情報伝達体制のあり方
- 発生時の状況(停電の発生等)を踏まえた確実な情報の伝達手段
- 対象別(住民、車両、船舶、海岸利用(海水浴客)等)の情報伝達手段のあり方

## 【検討事項3】 避難支援者の行動のあり方

- 各地域に応じた津波避難における避難誘導ルール<sup>赤</sup>のあり方
- 津波避難時における災害時要援護者の避難支援のあり方

## 【検討事項4】 自動車で安全かつ確実に避難できる方策

- 徒歩避難原則<sup>赤</sup>の徹底と各地域の自動車避難の検討に資するためのポイント・留意点の整理
- 安全・確実な自動車避難のために必要な対策
- 各地域の自動車避難の検討のためのポイント・留意点の整理(自動車避難の障害<sup>赤</sup>となりうる事象や自動車避難をせざるを得ないケース<sup>赤</sup>の整理)
- 地域の状況を考慮し、地域で検討する場の整備

## 【検討事項5】 津波からできるだけ短時間で円滑に避難ができる方策

- 短時間で避難を可能にするための備え
- 地域性(急傾斜地や平野部、都市部や地方集落)を考慮した防災対策のあり方
- 避難計画(避難行動、避難場所、海水浴客などの避難誘導<sup>赤</sup>)のあり方
- 地域の状況を考慮し、地域で検討する場の整備

## 【検討事項6】 防災意識の向上

- 持続性を持った防災教育・普及啓発のあり方
- 実践的な防災訓練のあり方